

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	井口喜源治の教育を学び合うことを通した、生涯学習振興に資する事業
事業主体 (連絡先)	一般財団法人井口喜源治記念館 安曇野市穂高4312
事業区分	(3)教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト / ハード / ソフト・ハード (該当項目に○印を記入)
総事業費	514,444 円 (うち支援金: 354,000円)

事業内容

1 講演会

井口喜源治とそれに連なる人たちの教育への取組み・生き方を、参加者が講演を通して共に学び合うことにより、今後の教育や学習のあり方について考える機会とした。

- (1) 期日・会場 10月20日(土)・碓山公園研成ホール
- (2) 講師 平本紀久雄(水産学博士、内村鑑三研究者)
- (3) テーマ「神田吉衛門と海保竹松
ー内村鑑三と交流のあった房総の人々ー」
- (4) 参加者、人数 教育関係者・「井口喜源治先生に学ぶ会」会員・地域の人々 合計100名

2 「井口喜源治先生に学ぶ会」年間4回

小中学校の教師等の教育関係者、地域の人々の参加により、喜源治の遺稿・記録などを読み合わせ、研究者の指導助言を得て、研成義塾の教育と喜源治の思想・人物像について学んだ。

- (1) 期日・会場
6月9日,9月1日,12月22日,31年2月16日
井口喜源治記念館及び碓山公園研成ホール
- (2) 講師 武富 保(信州大学名誉教授)
- (3) 参加予定者・人数
「井口喜源治先生に学ぶ会」会員・その他希望者 120名(延べ人数)

3 展示ケースの増設等

- ・既存のケースに展示できない資料等を展示するケースを購入し、一般の閲覧、研修に活用することができた。
- ・劣化、汚染した資料の修理をすることができた。



【講演会の様子】

【目標・ねらい】

- ① 「講演会」の内容の充実
- ② 「講演会」「学ぶ会」の参加者の増加と生涯学習の振興
- ③ 記念館の展示内容の充実と入館者の増加

※自己評価【 B 】

【理由】

- ・「講演会」への参加者が、100名となり増加している。
- ・「学ぶ会」への参加者が、目標よりも5%増加。
- ・新しい展示ケースに収められた「グーテンベルグ42行聖書の復刻版」等展示資料の充実により、入館者が増え、研成義塾・井口喜源治の教育に関する関心、啓発を高めることができた。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 井口喜源治の教育実践と生涯の歩みとを振り返って学ぶ機会の「講演会」では、千葉県から講師を招き、事前の打合せを綿密に行い、講演の内容を充実させることができた。
- ② 「講演会」「学ぶ会」の参加者の増加によりその教えを広く啓発することができた。学校教育関係・公民館活動の関係者も参加し、青少年の教育及び地域の人々の生涯学習の振興を図ることができた。
- ③ イベント・研修関係の入館者数が前年度より10%増加している。新しい展示ケースに収められた「ゲーテンベルグ42行聖書の復刻版」(学ぶ会講師の武富保信大名誉教授寄贈)は、15世紀に出版されたオリジナルを見本とした多色刷りの完全複製である。新聞にも取り上げられ、それを目当てに来る一般の入館者も見られた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

「講演会」を来年度は、より広い「穂高学習交流センター・みらい」のホールを会場に「井口喜源治の教育実践と生涯の歩み」について学べるようにする。より多くの方々に参加していただくため、井口喜源治の生きた時代の楽曲を中心にした「演奏会」を併せて行う。

また、記念館入口付近に、「大型掲示板」を設置し、通行人や外来者に当館の展示内容等を紹介し、入館への動機づけを図り入館者増につなげていくようにする。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある